

平成29年度 大田区立洗足池小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

◆教育目標 ◎考える子 ○思いやる子 ○元気な子 ○やりぬく子  
 ★目指す学校像 「子どもたちの笑顔や意欲があふれ、また来たいと思える楽しい学校」 子どもたち一人一人を大切に教育、子どもたちが意欲的に取り組む授業、地域・保護者との連携を深め、交流する学校、全教員が力を結集して総合力を発揮する学校  
 ★特色ある教育活動 ・国際理解教育 ・伝統文化教育 ・オリンピックパラリンピック教育 ・校内研究「外国語に親しみ、進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた活動を目指して～  
 ・学期ごとの学校公開 ・放課後算数クラブ ・土曜補習教室 ・読書タイム ・完全ノーチャイム ・30分間の休み時間 ・地域遊活動 ・洗小江戸しぐさ ・夏休みのわくわくスクール

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	学校関係者記入欄 コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:12月に実施する保護者アンケートで、「学習したことを理解している」項目の肯定的回答の割合が95%以上	3	・外国語活動の研究を進め、伝統・文化教育、留学生交流等も軌道に乗ってきた。来年度は、国際理解教育の研究発表に向けて、さらに研究を深める。 ・ステップ学習チェックシートは、児童には各単元の確かめプリントの後に見せ、個に応じてチャレンジまたはフォローアッププリントに取り組ませた。保護者には学期に1回(個人面談)見せ、成果や課題を確認し、共通理解を図る。 ・保護者アンケートで「学習していることを理解している」項目の肯定的回答は目標に到達することができなかった。各種テスト等の結果では、どの学年も学力の二極化が見られ、習熟度の低い児童についての割合と保護者アンケートの割合はほぼ一致する。習熟度の低い児童の学力を上げていくことが課題である。 ・4月に行ったベシックドリルが85点未満の児童を放課後算数クラブや夏季補習に呼んで課題に取り組ませた。その結果、全体の90%以上の児童が合格した。今後も継続する。	・各教科、きめ細かい指導法で授業が行われているのが分かり、とてもよいと思った。 ・全学年の授業を拝見させていただき、ありがとうございました。児童の興味を引き出す内容が多く、学ぶ意欲を高める授業だった。 ・授業の様子を見て、児童が真剣に取り組む姿、楽しそうな様子が伺えた。先生方の授業内容の工夫、様々な取組に感心した。 ・外国語を中心に、児童一人一人に対して、熱心な指導、教育をしている。 ・新任の民生委員が英語の授業を参観して(学校公開)本当に驚いていた。楽しく学んでよかった。 ・成果指標の高いことによる評価と思われる。取組の状況も改善策も評価として適切であると思う。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3:同 85%以上			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2:同 75%以上			
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。	2:同 75%以上			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	1:同 75%以下			
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守らうとする意識を高める。	4:11月に実施する児童の学習・生活アンケートで「毎日学校で生活することが楽しい」項目の肯定的回答の割合が92%以上	4	・学校とPTAで作成した「洗小のきまり」に、小中一貫のきまりの欄を設け、保護者と児童が振り返りチェック、個人面談時に持参し担任と確認するようにした。PTA、中学校も連携したことは、きまりを守ることへの意識を高めることになっている。 ・「洗小のきまり」で規則正しく生活できるようにするとともに、「洗足池小学校のいじめ防止基本方針」にもあるように、いじめの初期段階から子どもたちを注意深く見守るようにする。 ・道徳教育推進教師を講師として、校内で研修を行い、「特別の教科道徳」(ねらい、評価、授業展開等具体的な内容等)について理解を深め、授業力向上を図った。 ・年3回、いじめ防止研修を校内で行い、クラスでも年3回授業を行っていじめ防止についての意識を高めた。 ・毎月いじめチェックシートを担当が記入して共通認識を図り、小さいいじめの芽も見逃さないように努めた。 ・SOSの出し方に関する教育を小学校6年間の中で1単位時間以上実施し、いじめや自殺を防止する。	・チャイムがなくても時間を守って行動できることはとても素晴らしいと思った。 ・洗小のきまりの中でも小中一貫のきまりはとても素晴らしい取組だと思った。個人面談時のチェック確認も繰り返し伝えていくことで、身に付いていくのだと思う。 ・道徳教育に力を入れての取組がとても心強く思われる。続けてほしい。 ・洗小のきまりがとても身に付いてきていてよい。道徳は範囲も広くて、私たちにっては目を見張るものがある。いじめに関しては、大変だと思うが、続けて取り組んでほしい。 ・いじめ対策で、チェックシートを活用していじめを未然に防ぐ丁寧な取組に好感をもった。 ・校内で会う児童が、しっかり挨拶をしていることは、日ごろのご指導の成果だと思った。 ・学校にお邪魔すると、みなさんが気持ちよい挨拶をしてくれてうれしい。洗小江戸しぐさの視点も素敵だと思う。 ・児童の健全育成に力を入れ、豊かな人格形成を行っている。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び市区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3:同 80%以上			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2:同 70%以上			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	2:同 70%以上			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	1:同 70%未満			
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:12月に実施する保護者アンケートで、「体力の向上と危険防止の方法を身に付けさせている」の肯定的回答の割合が93%以上	4	・小中一貫「体力向上全体計画」を作成・推進し、体力・運動能力向上のため体育学習を充実させてきた。 ・持久力の向上を目指し、年間を通じて持久走タイムや長縄タイムを継続する。(一校一取組・一学級一実践)体力向上プログラムも活用して指導し、小学生駅伝大会参加への意欲を高める。 ・「体育・健康教育授業地区公開講座」では、講師を招いて持久走の指導や講演を実施し、保護者、地域との連携を図る。 ・小学校低学年の体育において、各領域の授業内容を充実させる。来年度からは、体育指導補助員を活用して、さらに、運動の楽しさを味わわせ、運動への関心・意欲を高める。日常的に運動する機会の増加を目指す。 ・給食指導を「食に関する教育」の中心に位置づけ、栄養士と連携した給食指導及び教科等における指導も通して、食生活の充実・改善をねらいとした食育を推進する。	・学力向上のためにも体力向上は必要なことなので、ぜひこれからも力を入れた指導をお願いする。 ・計画的、段階的な指導で体力向上に努めている。 ・校内の掲示物や給食の試食を通して、「食育」への取組に尽力していることを実感した。 ・93%を超える保護者が肯定的であるということはずいと思う。体力や食に関する教育は、中学校にもつながるものと思う。
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	3:同 80%以上			
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	2:同 70%以上			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	1:同 70%未満			
		本校独自で作成しているアンケートで、「礼正しい言葉づかいや態度に気を付けて生活できている。(返事・あいさつ・敬語)」の肯定的評価が75%以上	1:同 70%未満			
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:学校公開週間の保護者アンケートで「分かりやすい授業をしている」「活動が充実している」の2項目のA評価が60%以上	3	・平成26年度から国際理解教育を推進するために、「外国語に親しみ、進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」を研究主題に外国語活動の研究を進めて、着実に成果が上がってきている。来年度は研究発表を行う。 ・職歴・経験の異なるベアで行うメンターシップ研修(若手教員年5回・主任教諭等年2回の相互授業観察)を活用した授業力の向上(本校におけるOJT研修)を図っている。若手が増えたので、効果的である。今後も方法を改善しながら継続する。 ・スキルアップ研修会(学習指導や校務の遂行に必要な知識の伝達を若手教員に行う研修/月1回)の開催し、継続する。 ・他校の研究発表、指導教諭の模範授業等に全教員が参加(年間1回以上)し、学んだことについて報告を行った。 ・タブレットやICT機器、その他のメディアを活用して、目的に合わせた情報の収集・整理ができることと、それらを生活に役立てていくことができるように指導する。 ・情報が生活に与える影響を理解するとともに、情報モラルを守り、効果的に発信することができるよう、教員・保護者向け情報モラル研修を実施する。	・一方的に先生が話すだけではなく、電子黒板などのICT機器を活用したり、児童から発現させる機会を設けたり、様々な工夫をされているという印象をもった。 ・次々に改革される授業の取組に先生方が真剣に向き合っている姿が素晴らしい。 ・日々、忙しい中、様々な研修授業の準備など、子どもたちのために行われていることを感じた。 ・タブレットやプロジェクターを使用することで、子どもたちにとって分かりやすくなったと思った。 ・より多くの時間、ICTを活用してほしい。 ・平素の授業、研修等を通じ、教職員の質を向上させ、教育環境を整えている。 ・教員の取組を評価してもらえるような指標にするとよい。これまで積み上げてきた取組(特にメンターシップ研修)は素晴らしいと思う。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3:同 55%以上			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2:同 50%以上			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	2:同 50%以上			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	1:同 50%未満			
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:12月に実施する保護者アンケートで、項目「教育活動に地域の力を生かしている」の肯定的回答の割合が95%以上	4	・学校だけで、保健・給食などの便りを毎月1回発行し、ホームページにも挙げ、教育活動についてホームページに公開し、積極的に情報を発信する。 ・学校支援地域本部との連携をとり、読み聞かせ、外国語活動や家庭科などの授業支援、地域人材を活用した授業などを推進し、教育活動を一層充実させる。 ・今年度は、東京工業大学との交流を1年に3回以上行い、子どもたちの外国語活動の活用、発信の場となった。今後も、発展、継続させる。 ・「平成28・29年度 伝統・文化教育推進校(東京都)」として、日本の伝統・文化のよさを発信する能力・態度の育成を目指してきた。「伝統・文化教室」として行ってきた様々な取組を、今後も地域人材等を活かして、できるだけ継続していきたい。	・東工大との交流、地域の方を講師とした【和菓子教室】「外国語授業」など、独特の取組をされていると感心した。 ・東工大との交流を回数多く行ってほしい。子どもたちの地域とのふれあいのためにも、国際感覚を養うためにも良いと思う。 ・地域から(自治会)も、子どもたちの教育に役立てる行事には、呼びかけをしようと思った。 ・地域の方のボランティア、様々な地域での連携など、地域に根差した、開かれた学校であると強く感じた。 ・地域に開かれた学校運営を行い、町との連携に努めている。 ・成果指標が厳しすぎるのではないかと。A評価にするなら、50%でもよいのでは。 ・地域の教育力を活用し、素晴らしい実践だと思う。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の発案等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3:同 90%以上			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	2:同 80%以上			
		東京工業大学・地域と連携した教育活動を充実させる。	1:同 70%以上			

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。